

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			評価方法			
授業概要	内科以外の疾患について、概説、疫学、成因と病態生理、症状、診断、治療予後などについて、詳しく教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	皮膚疾患 その3						
第2週	眼科疾患 その1						
第3週	眼科疾患 その2						
第4週	耳鼻科疾患 その1						
第5週	耳鼻科疾患 その2						
第6週	耳鼻科疾患 その3						
第7週	精神科疾患 その1						
第8週	精神科疾患 その2						
第9週	心療内科						
第10週	第1章～第3章までのまとめ						
第11週	第4章～第6章までのまとめ						
第12週	第7章～第8章までのまとめ						
第13週	第9章～第11章までのまとめ						
第14週	第11章～第13章までのまとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学編)Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋療法学校協会 編 東洋医学臨床論 第2章 治療各論 3. スポーツ医学における鍼灸療法をベースに臨床上遭遇する事が多いと考えられるスポーツ疾患に対する知識を習得する。また、疾患を鑑別するための徒手検査方法、疾患に対する鍼灸治療法について実習形式で学び診察から治療まで一連の流れを修得できるようにする。			評価方法			
授業概要	資料を配布し、座学にて知識を習得する。実技は学生グループを作り徒手検査から鍼灸治療の流れを確認する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント、ステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	上肢のスポーツ障害 座学①						
第2週	上肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)①						
第3週	上肢のスポーツ障害 座学②						
第4週	上肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)②						
第5週	上肢のスポーツ障害 座学③						
第6週	上肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)③						
第7週	体幹部のスポーツ障害 座学						
第8週	体幹部のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)						
第9週	下肢のスポーツ障害 座学①						
第10週	下肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)①						
第11週	下肢のスポーツ障害 座学②						
第12週	下肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)②						
第13週	下肢のスポーツ障害 座学③						
第14週	下肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)③						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編)Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	柘木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	演習により、各項目を順次理解し、鍼灸治療が行えるようにする。実際の臨床における能力向上のために、鍼灸治療体系の理解を深める。			評価方法			
授業概要	2年に引き続き、東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるようになる為の東洋医学領域の基礎知識の整理、問題演習等を教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題①						
第2週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題②						
第3週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題③						
第4週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題④						
第5週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑤						
第6週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑥						
第7週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑦						
第8週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑧						
第9週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑨						
第10週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑩						
第11週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑪						
第12週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑫						
第13週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑬						
第14週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題 復習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和3年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	総合領域Ⅴ(あはき史含む)①	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 あはき史の概要を学び、公衆衛生学・経絡経穴概論・はりきゅう理論等を復習し、知識の定着を図る。 2 高齢者に対する鍼灸治療など臨床現場で用いる知識と技術の習得を目指す。			評価方法			
授業概要	1. 講義プリントを配布し、スライドを用い授業を行う。 2. 小テストを行い知識の定着を図る。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論・講義プリント	使用器材	プロジェクター・白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	あはき史の概要①						
第2週	あはき史の概要②						
第3週	手部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第4週	前腕部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第5週	足部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第6週	下腿部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第7週	頭部顔面部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第8週	体幹部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第9週	上腕部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第10週	大腿部の筋肉、神経、経穴部位の復習						
第11週	経絡経穴概論の演習・国試対策①						
第12週	経絡経穴概論の演習・国試対策②						
第13週	経絡経穴概論の演習・国試対策③						
第14週	経絡経穴概論の演習・国試対策④						
第15週	経絡経穴概論の演習・国試対策⑤						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	総合領域Ⅴ(あはき史含む)②	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 あはき史の概要を学び、公衆衛生学・経絡経穴概論・はりきゅう理論等を復習し、知識の定着を図る。 2 高齢者に対する鍼灸治療など臨床現場で用いる知識と技術の習得を目指す。			評価方法			
授業概要	1. 講義プリントを配布し、スライドを用いて授業を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	講義プリント・教科書	使用器材	プロジェクター・白板・ベッド・鍼灸治療道具				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	はりきゅう理論 復習 ①						
第2週	はりきゅう理論 復習 ②						
第3週	はりきゅう理論 復習 ③						
第4週	はりきゅう理論 復習 ④						
第5週	はりきゅう理論 復習 ⑤						
第6週	はりきゅう理論 復習 ⑥						
第7週	衛生学・公衆衛生学 復習 ①						
第8週	衛生学・公衆衛生学 復習 ②						
第9週	衛生学・公衆衛生学 復習 ③ (柔道整復師国家試験過去問より)						
第10週	高齢者の概要 ①						
第11週	高齢者の概要 ②						
第12週	高齢者に対する鍼灸治療 ① 頸部、胸背部のケア						
第13週	高齢者に対する鍼灸治療 ② 肩のケア						
第14週	高齢者に対する鍼灸治療 ③ 腰部のケア						
第15週	高齢者に対する鍼灸治療 ④ 膝部のケア						
授業外 学習指示等	1. 教科書のある科目については、講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2. 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	あはきの適応の判断	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	日常臨床において遭遇する可能性のある症状が、鍼灸で適応可能か判断するための知識を修得する。			評価方法			
授業概要	配布プリントを中心にスライド等を用いて講義を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学総論・配布プリント	使用器材	白板・プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	適応判断のための問診プロセス ①						
第2週	適応判断のための問診プロセス ②						
第3週	全身所見における適否の判断 ①						
第4週	全身所見における適否の判断 ②						
第5週	全身所見における適否の判断 ③						
第6週	頭部所見における適否の判断 ①						
第7週	頭部所見における適否の判断 ②						
第8週	胸部所見における適否の判断 ①						
第9週	胸部所見における適否の判断 ②						
第10週	腹部所見における適否の判断 ①						
第11週	腹部所見における適否の判断 ②						
第12週	運動器所見における適否の判断 ①						
第13週	運動器所見における適否の判断 ②						
第14週	その他の所見における適否の判断						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	保健科学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸施術院の院長	担当	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 骨の種類、骨の連結、関節の特徴の概要を述べることができる。 2 体幹、上肢、下肢の骨の構成を説明できる。 3 筋の種類を述べるができる。 4 筋の作用を説明することができる。 5 体幹、上肢、下肢における筋の作用を実演できる。			評価方法 期末試験 50% 小テスト 50%			
授業概要	診察及び治療に必要な保健科学的知識、特に体幹・上肢・下肢の骨、関節、靭帯、筋系の構造と機能について学び、鍼灸師としての基礎学力を付けることを目的とする。			(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	・増補改訂版スポーツトレーニング理論 ・プロの技術が身に付くテーピング ・パイブルルぜんぶわかる人体解剖図	使用器材	提示装置、人体模型				
週	授業項目 内容						実施結果
第1週	・総論(骨の種類、骨の連結、関節の種類)を学ぶ。						
第2週	・体幹の骨(椎骨、胸骨、胸郭)の構成を学ぶ。 ・頭蓋の骨(脳頭蓋、顔面頭蓋、内頭蓋底、外頭蓋底)の構成を学ぶ。						
第3週	・上肢骨(上肢帯の骨、上腕骨、前腕骨、手の骨)の構成を学ぶ。						
第4週	・下肢骨(下肢帯の骨、大腿骨、下肢骨、足の骨)の構成を学ぶ。						
第5週	・顎関節と靭帯、椎骨の関節と靭帯を学ぶ。						
第6週	・上肢・下肢の関節と靭帯を学ぶ。						
第7週	・第1週～第6週で学んだ骨の小試験						
第8週	・総論[筋(骨格筋)の起始・停止、筋の形態、筋の作用の種類、筋の作用による分類、筋の補助装置:筋膜・筋支帯・滑液包・種子骨・筋滑車、筋の神経:運動単位]を学ぶ。						
第9週	・上肢に筋の付着部位(起始・停止)を学ぶ。 ・上肢の筋の作用と運動を学ぶ。 ・腋窩を構成する筋を学ぶ。						
第10週	・下肢に筋の付着部位(起始・停止)を学ぶ。 ・下肢の筋の作用と運動を学ぶ。						
第11週	・脊髄神経後枝、脳神経、頸神経叢、胸神経に支配される筋を学ぶ。						
第12週	・腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢に支配される筋を学ぶ。						
第13週	・顔面・腹部の筋、横隔膜、呼吸運動、回旋筋円板、鼠径管を学ぶ						
第14週	・第8週～第13週で学んだ筋の小試験						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に、シラバスの該当箇所を教科書で予習し、質問箇所を書き出しておくこと。 2 復習は当日の授業の重要事項をその日の内に振り返り、理解できていないときは次週の授業のとき質問すること。						

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	生体観察	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	柘木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋医学における”四診”という診察法の重要な部分(舌診)の基礎を習得し、鍼灸の臨床に応用する。			評価方法			
授業概要	1 舌診の見方 2 異常な舌診の病理状態、診断意義 3 舌診の臨床応用法			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布プリント、新版 東洋医学概論	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	東洋医学の診察 四診法について						
第2週	舌診の概論 その①						
第3週	その②						
第4週	舌診の各論 舌質の望診 その①						
第5週	舌質の望診 その②						
第6週	舌苔の望診 その①						
第7週	舌苔の望診 その②						
第8週	舌質と舌苔の総合的判断 その①						
第9週	その②						
第10週	復習						
第11週	舌診の実際 その①						
第12週	その②						
第13週	その③						
第14週	復習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	毎日寝る前と朝起きた時自分の舌を観察して、伝統医学の考え方を理解する。						



## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	病態生理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 正常な状態のヒトの身体構造の概要を述べるができる。 2 正常な構造が破綻したとき体の中でどんな変化が起き、どんな症状が起きるかを説明できる。 3 調節機能が破綻するメカニズムを説明することができる。			評価方法  期末試験 50% 小テスト 50%  (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	病態生理学を学ぶことにより、人体の正常な構造が異常をきたすと身体の調節機能が破綻し色々な症状が現れる事を知り、鍼灸師としての基礎学力をつける。						
教科書等	臨床医学総論(10章)・配布資料	使用器材	提示装置				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	・脳・神経の異常①(頭痛、顔面痛、歯痛)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第2週	・脳・神経の異常②(運動麻痺、不眠、意識障害)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第3週	・感覚器の異常(めまい、耳鳴り、難聴、嘔声、眼振)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第4週	・呼吸器系の異常[咳・痰、息切れ(呼吸困難)、胸水、血痰・喀血]の発症のメカニズムを学ぶ。						
第5週	・心臓系の異常(動悸、胸痛、貧血、ショック)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第6週	・消化器系の異常[腹痛、便秘、下痢、食欲不振、肥満、やせ(るいそう)、嚥下障害、悪心・嘔吐、吐血・下血、口渇]の発症のメカニズムを学ぶ。						
第7週	第1週～第6週で学んだことの小試験と解説						
第8週	・生殖器系の異常(月経異常、不正性器出血)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第9週	・泌尿器系の異常(排尿障害、欠尿・無尿、多尿)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第10週	・体液調節の異常(浮腫)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第11週	・筋・骨格系の異常(肩こり、頸肩腕痛、上肢痛、腰下肢痛、関節痛)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第12週	・皮膚・体温調節の異常(発熱、のぼせ、冷え、発疹)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第13週	・脈管系の異常(出血傾向)の発症のメカニズムを学ぶ。 ・免疫その他の異常(易感染性、疲労・倦怠)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第14週	第8週～第13週で学んだことの小試験と解説						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に、シラバスの該当箇所を教科書で予習し、質問箇所を書き出しておくこと。 2 復習は当日の授業の重要事項をその日の内に振り返り、理解できていないときは次週の授業のとき質問すること。						

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	臨床実習①	授業時期	後期	授業時数	90
実務経験	鍼灸院で施術業務に従事中	担当	星野英二	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	1 東洋医学的な問診事項を聴取できる。 2 東洋医学的な病態把握を行い弁証が特定できる。 3 弁証に基づいた治療方針と治療方法が想起できる。			評価方法			
授業概要	東洋医学的な病態把握と治療方針を基に、一般的な鍼灸治療法を学習する。			レポート 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、 東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	PC、液晶プロジェクター、ディスプレイ、ステンレス鍼				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	東洋医学の診断と治療 ①鑑別の優先順位 ②各治療法の特徴の違い ③東洋医学的な問診事項						
第2週	弁証①気血津液弁証 気血津液弁証について学ぶ。 ①基本生理 ②病理 ③治則						
第3週	弁証①臓腑弁証 臓腑弁証について学ぶ ①基本生理 ②病理 ③治則						
第4週	弁証①六淫弁証 六淫弁証について学ぶ ①基本生理 ②病理 ③治則						
第5週	論治 ①治療原則 ②治法 ③選穴 ④補瀉						
第6週	弁証論治の手順 ①八綱弁証 ②問診から選穴まで						
第7週	症候①頭痛 ①病態の特徴 ②治療法 ③実技						
第8週	症候②咳嗽 ①病態の特徴 ②治療法 ③実技						
第9週	症候③肩こり ①病態の特徴 ②治療法 ③実技						
第10週	症候④食欲不振 ①病態の特徴 ②治療法 ③実技						
第11週	症候⑤不眠 ①病態の特徴 ②治療法 ③実技						
第12週	症候⑥耳鳴・難聴 ①病態の特徴 ②治療法 ③実技						
第13週	治療の実践① ロールプレイ 問診から施術を行い、カルテを作成						
第14週	治療の実践② ロールプレイ 問診から施術を行い、カルテを作成						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 東洋医学概論が基礎となるため、復習しておくこと。 2 今までに学習した施術の作法や手順を確認し、スムーズに行えるよう準備しておくこと。						

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	臨床実習②	授業時期	後期	授業時数	90
実務経験	鍼灸院で施術業務に従事中	担当	星野英二	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	中期で修得した徒手検査方法を用いて、疾患に対する鍼灸治療法について実習形式で学び診察から治療まで一連の流れを修得できるようにする。			評価方法			
授業概要	模擬症例を用いてペアを作り、1週毎に患者役と施術者役を交替しながら疾患の特定、鍼灸治療方針の決定、治療方針に基づく鍼灸実技までを行う。同時に附属治療院にて研修も行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論、臨床医学総論など	使用器材	ディスプレイ鍼、もぐさ、打鍵槌、角度計、メジャー、音叉				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	模擬症例を用いた鍼灸施術①-1						
第2週	模擬症例を用いた鍼灸施術①-2						
第3週	模擬症例を用いた鍼灸施術②-1						
第4週	模擬症例を用いた鍼灸施術②-2						
第5週	模擬症例を用いた鍼灸施術③-1						
第6週	模擬症例を用いた鍼灸施術③-2						
第7週	模擬症例を用いた鍼灸施術④-1						
第8週	模擬症例を用いた鍼灸施術④-2						
第9週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑤-1						
第10週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑤-2						
第11週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑥-1						
第12週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑥-2						
第13週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑦-1						
第14週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑦-2						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科 3年	科目名	臨床実習①	授業時期	後期	授業時数	90
実務経験	鍼灸院で施術業務に従事中	担当	和泉尚子	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	中期までに修得した治療技術を用いて、婦人科疾患や美容鍼灸分野に対する鍼灸治療法について実習形式で学び診察から治療まで一連の流れを修得できるようにする。			評価方法			
授業概要	模擬症例を用いてペアを作り、1週毎に患者役と施術者役を交替しながら疾患の特定、鍼灸治療方針の決定、治療方針に基づく鍼灸実技までを行う。同時に附属治療院にて研修も行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論、臨床医学総論など	使用器材	ディスポ鍼、もぐさ、打鍵槌、角度計、メジャー、音叉				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術①-1						
第2週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術①-2						
第3週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術②-1						
第4週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術②-2						
第5週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術③-1						
第6週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術③-2						
第7週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術④-1						
第8週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術④-2						
第9週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑤-1						
第10週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑤-2						
第11週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑥-1						
第12週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑥-2						
第13週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑦-1						
第14週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑦-2						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						